2025 年度　学校法人 三幸学園　千葉ビューティー＆ブライダル専門学校
自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 ： 副校長　木村　香奈子
学校関係者評価報告責任者 ： 学校関係者評価委員会委員長　齊藤　貴雄

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」 のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョン を掲げている。 また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動する ことで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性 化できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。 千葉校としては「退学率の低減」「生徒に成長を実感させる」「卒業生の満足度向上」を目標に掲げ、「千葉県地域 No.1」の美容専門学校を目指している。
また、ブライダル分野の教育としては、「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできる No.1のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・全体会議や研修などで教職員への教育理念・目標の浸透を図り、学生へ指導をする際に統一の指導ができるよう努めてきたが、全教員へ浸透には至っていない現状である。
・保護者連絡ツールを導入し、保護者に対して教育理念・目標の浸透を図ったが、
浸透しているかどうかの定量的判断をする施策を行わなかったため、効果が不明となる。

② 学校関係者評価委員会コメント

対策は行ってきたものの、自身の問題として自覚する姿勢に欠ける部分もあり、教職員への教育理念・目標の浸透度を深めることに苦慮している。教職員への浸透度を高めるために、引き続き会議にて教育理念・目標の理解を深めることに努める。また、保護者連絡ツールについては、浸透度を把握するためにアンケートの実施を検討する。【蒲生副校長】

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・教育理念・目標の浸透が十分ではない

・現代の課題や傾向に合わせた将来構想を考えて取り組んではいるが、業界が求める人物像とのギャップがある

③ 今後の改善方策

・全体会議や研修を通じて教職員への教育理念・目標の浸透を複数回にわたり、図る

・企業様に足を運び、本校や学生の特徴に対する理解促進を図る

④ 特記事項

キャリアデザインなど就職対策の授業を通して、業界が求める人材について、学生への具体的な落とし込みを積極的に行う。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

・今後の就職活動を踏まえ、企業との距離が近づくことには非常に意義がある。昨今は企業も就活生との強いつながりを求めている。現代の就活世代の考え方を理解したうえで、会社づくりをしていく必要がある。その為にも、学校と企業がお互いに理解を深めることが必要不可欠である。【全米ブライダルコンサルタント協会　林委員】

・学生時代に実際の現場の情報を得たうえで、自分自身が現場に出られたため、就職後のギャップはほとんどなかったが、同年度の卒業生の中にはギャップを感じ、退職をしてしまった人もいる。学校と現場のギャップを埋めることが離職率の低下にも繋がるため、1つの企業に限らず、多数の企業の現状を学校側が理解することは重要である。

　また、学校の理念や目的についても WEB 掲示板を通じて発信しており、当時は保護者の目に触れる機会があった。しかし、保護者全員が閲覧しているとは限らないため、より多くの保護者の関心を引き、目に留まるような工夫が求められる。【卒業生　原田委員】

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務･財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①　課題

・情報システム化等による業務効率化

授業データの十分に行われていない。 また、学生の個人情報･現在の状況等、一元化されていなかったため、適切な情報の特定に時間を要している。

②　今後の改善方策

授業データの蓄積、情報資料の一元化を行う

③　特記事項

なし

④　学校関係者評価委員会コメント

･高校分野においては、全教科で授業データの格納を行い、継続的な蓄積が図られている。教員の業務量の軽減にも繋がり、またどの教員が指導をしても同じ成果をあげられるような授業の質の担保をするということも教育現場としては重要である。また都度授業での好事例を共有することが「質の担保」や「授業力向上」に繋がる。

【飛鳥未来高等学校　齊藤委員】

･AIの使用を斡旋しながら、業務効率化を図っている。教職員の残業時間･労務の管理の為に行っているがAIの使用に不慣れな教員も多く見受けられる。たくさんの個人情報を取り扱うため、情報漏洩や適切に運営ができているかに細心の注意を払う必要性を感じている。研修などを行い、AIを使用する教員がAIリテラシーを高め、敏感且つ注意深く使用をしていくことが課題である。【木村副校長】

･現状のブライダル業界は企業のシステムの導入が遅い傾向にある。しかし、ホテル･観光分野ではPCスキルは必要不可欠なため、AI や PC スキルは就職後に重要なスキルとなる。現代、スマホ操作は得意だが、PCスキルが苦手な学生が増えているため、学生が PC や AI を積極的に使用できるような環境を整備することが求められる。

【全米ブライダルコンサルタント協会　林委員】

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成･実施方針等が策定されているか	3
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育･実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫･開発などが実施されているか	3
関連分野の企業･関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成･見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技･実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施･評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価･単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務･兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識･技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

①　課題

･授業の環境設定が十分でない

･授業展開に関して学生の興味･関心を引き出すための工夫が十分とは言えない

･現在の学生の状況の状況や特性に合わせた授業運営が行えていない

②　今後の改善方策

･定期的な教科会を実施し、教員同士の連携を強化する

･授業運営にあたり、各時間の位置づけや目的について明確にし、「何を行うのか」「何のために行うのか」を学生に対して明示する。

③　特記事項

なし

④　学校関係者評価委員会コメント

・ウェディングプランナーコース在学時に受講していたカリキュラムは教科名こそ異なるものの、学習内容がほとんど重複している教科がしばしばあった。常に新しい情報を知りたいと思っている学生にとって、同じことの繰り返しはタイムパフォーマンスの悪さを感じさせ、モチベーションの低下に繋がっていた。
どんどんと新しいことを学べるカリキュラムの検討が必要である。【卒業生　原田委員】

・反復練習が必要な内容であれば、繰り返し行うことも致し方ない場合もある。しかし、その授業が「何のために行われているのか」が学生に伝わっているかどうかが重要である。伝わっていないとモチベーション低下に繋がるため、高校分野でも「なぜ今これを学習しているのか」を明確にし、授業運営を行っている。【飛鳥未来高等学校　齊藤委員】

・在学中の成績評価についても、その基準や方法を明確にする必要性がある。
成績評価方法を明確に示していない授業では　成績結果にも多々疑問が残り、納得感に欠ける傾向が見られた。一方で、明確に示された授業は納得感をもって受け入れられている。【卒業生　原田委員】

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

①　課題

・現状、退学者の増加が大きな課題となっている

・卒業生の活躍状況を把握し、その情報を在校生へ還元することが必要である

②　今後の改善方策

・担任・講師間の情報共有を徹底する

・退学希望が出る前に異変を察知し、初期対応ができる担任陣の育成を行う

・卒業生 LINE や同窓会を活用して卒業生の状況を把握し卒業生講話や就職採用へとつなげる

・同窓会委員を通じて、卒業生との交流の機会づくりを行う

③　特記事項

なし

④　学校関係者評価委員会コメント

・高校分野から見ると、専門学校における退学率が特別高いという印象はないものの、進学後に選択した分野との相違を感じる学生が一定数存在すると認識している。今後も高校と専門学校での連携を通じて分野理解を深め、進学してからの分野相違がないようにし、進学後のミスマッチを防ぐことで、退学防止につなげる必要がある。また、高校分野では退学防止対策の一環として、月1で個別アンケートを実施し、初期対応につなげている。【飛鳥未来高等学校　齊藤委員】

・実際のブライダル現場においては、専門学校卒業者が即戦力として評価されている一方、昇進のタイミング等においては大卒者が優位となる傾向が強い。ブライダル企業内でも専門卒のキャリア形成について、まだ厳しい部分や整っていない部分を多く感じている。【卒業生　原田委員】

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路･就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校･高等専修学校等との連携によるキャリア教育･職業教育の取組が行われているか	4

①　課題

･教職員が業界動向を十分に理解できていない

･保護者との連携不足である

②　今後の改善方策

･企業講話や企業訪問を通じて業界動向を理解し、その内容を教科会において職員間でも共有をする

･保護者への密な連絡、相談を行い、協力を促進する

③　特記事項

なし

④　学校関係者評価委員会コメント

･経済的側面においては、奨学金利用者が年々増加しており、現在では約 7 割の学生が活用している。利用するにあたり、複雑な手続きを要するため、手続きの指導や対応をすることも担任の業務負担になっている。そこをどのように改善していくかが今後の課題である。【木村副校長】

･ここ近年で奨学金使用学生が急増している背景を踏まえると、奨学金を学校だけで手続き、管理をすることも難しい時代ではないだろうか。奨学金の重要性、お金のことを学生自身や保護者がもっと深く理解する必要性がある。本来であれば、各家庭で手続きをしてもらうことが理想である。【全米ブライダルコンサルタント協会 林委員】

･高校分野においても、海外ツールの学生への対応が増加しており、各種案内や内容理解を促す点で教員が対応に苦慮している。学生への教育、学費、就職支援を中心に努力はしているが手厚い支援がどこまで必要か判断が難しい。【飛鳥未来高等学校　齊藤委員】

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設･設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災･安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

インターンシップを選択する生徒の割合が低下していることから、現場経験の不足により、理想と現実にギャップが生じている可能性がある点が課題である。また、厳しさや継続の必要性を強く伝えている現状があるため、その必要性や伝え方について見直しが必要である。

② 今後の改善方策

現場経験が採用や就職にどのように結びついていくかを更に重点的に伝えたうえで、インターンシップを選択する学生の増加を図る。また、その過程を通じて即戦力となる学生の育成を推進する。

③ 特記事項

今年度よりハワイからヨーロッパへの海外研修を予定している

④ 学校関係者評価委員会コメント

・現在就活選考においては、インターンシップ経験者を優遇する企業も増えており、「現場を知っていて、就職後のミスマッチが少ない」という部分が重視される傾向にある。そんな現代だからこそ、インターンシップを斡旋し、より多くの学生に現場を経験させる必要性がある。しかし、学生により個人差があり、インターンシップに参加ができない学生が一定数存在するのも事実である。インターンシップを履修しない選択をするのであれば、インターンシップ同等の内容が履修できるようなカリキュラムがあると良い。
また、インターンシップに行くネックを自分のプラスにできる意味を見出せるようなアプローチが必要である。
【全米ブライダルコンサルタント協会　林委員】

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

①　課題

・少子化などブライダル業界の懸念点が社会的に広がってきており、業界のこれからを懸念する声が増加している

・ブライダルプロデュース科の入学希望者が減少傾向である

②　今後の改善方策

・華やかな面だけでなく、業界の人材不足など、リアルな現場の声も伝えていく必要がある

・在校生の愛校心の醸成が必要である。

③　特記事項

なし

④　学校関係者評価委員会コメント

・結婚式の良さを知っている高校生が減っていることが入学者数にも大きく影響をしている。
そこは学校現場だけでなく、業界が努力し、若い世代に結婚式の良さを早くから伝えていくことが必要である。「結婚式が良いものだ」という価値を広め切れていないことも業界にとって大きな課題である。また、「結婚式が好き」という思いを持つ在校生の存在は、高校生の心を動かすことにつながる。学生の結婚式への思い、学校への思いなど、愛校心の強い学生を育成し、学生からブライダル業界・学校の魅力を発信できる環境づくりが望まれる。
【全米ブライダルコンサルタント協会　林委員】

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算･収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算･収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している。

④学校関係者評価委員会コメント

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

①　課題

なし

②　今後の改善方策

なし

④　特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(10)社会貢献･地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献･地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座･教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

①　課題

中高生を対象とした【仕事の学び場】、地域密着の【ハロウィンイベント】を各年 1 回の実施をしているが
一般の方に向けた公開講座や地域交流の取り組みが不足している

②　今後の改善方策

一般の方に対する講座、教育訓練の検討する

③　特記事項

なし

④　学校関係者評価委員会コメント

イベントを実施しているものの、実施内容はビューティー分野に特化した内容が多く、ブライダル分野に特化した内容が少ないため、業界理解やブライダルの魅力を伝えるところまで到達していないことが課題である。
イベント内容にブライダルの業界理解を強化するような内容を増やすことが重要である。また、高校と専門学校で連携し、ブライダルの魅力をより伝えられるような授業運営の構築を検討する必要がある。【木村副校長】

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

全体を通し、今後は学校側がブライダル企業との連携を強化し、在学中から企業や現場を実際に知ることができる体制の構築が求められる。説明会、1Dayインターンシップ、長期インターンシップの斡旋を行うことで、学生が社会に出た際のギャップを軽減し、長期的に働くことができる環境の醸成へ繋げる。
教育環境や法令遵守、財務面では安定した運営がなされている一方、時代の変化に合わせたデジタル化の推進と、業界・学生双方のニーズに合致した実践的な教育へのブラッシュアップが重点事項である。